



miho Hatanaka,

初めて性教育の授業を行ったのは小学校5年生の子どもたちに向けてであった。顔見知りの先生からお声がけいただいたのだが、その時にはまさか今日まで続けることになるとは思ってもみなかった。その授業からしばらくして教室を訪れた時、子どもたちは先生のギターにあわせて「たんぽぽ」を歌ってくれた。いまだに温かな気持ちになる。今回は、「いのち」の詩を二編。そして、二枚の写真を。



【第17話 いのちのうた 2 : こどものコトバ】

第16話の冒頭に「性教育は四半世紀ほど行ってきた」と書いたのを読み返して、「正確には何年になるのかな?」と思い記録をひっくり返した。24年であった。「そういえば…」とほかのことも調べ始めると、私がこの間に行ってきたさまざまなことが掘り起こされ、年表のようになったメモの紙に自分がどのように歩んできたかの跡をみるようであった。このようなことを指すのか、「人生の棚卸し」という言葉があるらしい。大学院で臨床心理学を専攻したのも自分の行ってきた性教育を振り返るためであり、ほかの関心事 —例えば yoga なんかも— を含めても、ばらばらのようであり実はつながっていることがみえてくる。私が“私”に“なっていく”感覚。一つのことが終わると丁度よい具合にまた新しいことが始まって、フリーでいる強みかありがたいことに誰彼と声をかけてくださって、思えば性教育もそのように始まったのだ。

元を辿れば、アンケートや発言などから子どもたちの言葉を「預かる」ことは私の行う性教育の原点である。ニーズを掘り上げる目的以上に、本質的であり哲学的な疑問や考えが書かれていて驚いたり唸ったりじーンとしたり。大切なものを受けとっていると感じる。そうして溜まる想いをもって、また別の子どもたちに届けられたら、と思う。

「いのち」

作：S 小学校 5 年生のみなさん

「いのち」。

…それは 特別な大事な物。 すごいもの。

生きるための大切なもの。

一人一つしかない

たいせつな 天からのもらいもの。

どんな物よりも大切にあつかい、
少しでもきずをつけてはいけない物。

楽しくてやさしい物。

かがやいているもの・ピカピカしたもの・ふわふわな物・キラキラしたもの。

力。

新しいいのち、…赤ちゃん。

人そのもの。

こきゅうをしたり、歩いたり、とんだりする事
顔がきらきらしたり、どよーんしたりする事

育てるもの、または育てられるもの。
お母さんからもらった最高のプレゼント、
先祖代々伝わってきた大切なもの

「いのち」って

ひとりにひとつしかないもの。

世界に、

宇宙に、

この世に、

たったひとつの 大事なもの。

一つしかない大切なもの。

一つしかないけどたくさんあるもの。



Frost -1

「いのち」

作：O 小学校 2 年生のみなさん

いのちは、
だいじなもの。
人げんの一番たいせつなもの
だから、
けったりなぐったりしたらだめです。



いのちがないと、いきれない。
いのちがないとからだはとてもつめたいと思いました。
たいせつなことだから みんなの いのちをまもる

Frost -2

にわに花がいっぱいあります。
花は みずやりをしないと しんでしまいます。
おうちにかめがいて、かめもいきているから、いつもたいせつにしています。
おうちの虫もいのちがあるからたいせつにそだててます。

いのちは、
い。 かぞく。 からだ。 しんぞう。 いとこ。 ともだち。
いのちは、
まま。 ぱぱ。 おなか。 のうみそ。

いのちは、
あかちゃん。
あたらしいいのちがたんじょうすること
体のおくにはいつて、ハートみたいな形 おおきさは赤ちゃんゆびぐらい。

いのちは、
みんなのたからもの。
体の中のいちばんたいせつなもの。たいせつで1つしかないもの。
生まれていのちができる。
いきているからいのちがある。

いのちは、
あたたかい光
いちばんだいじなきぼう